

やってみて分かった!

「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムを創り出すコツ

koju

「声」と「場」を大切に学習プログラムを創り出すコツは..

POINT 01 できることから少しずつ..

いきなりは難しいことも.. できることから少しずつ!

- ・地域のニーズを把握し講座を企画
- ・当事者に適切に支援できる体制の整備



- ・今ある講座を少し工夫
- ・広報への掲載を工夫
例「障害のある方にご相談ください」
- ・特別支援学校等と連携・協働する。



例) スポーツ教室

仙北市中央公民館と大曲支援学校
せんぼく校が連携、協働し実施。

POINT 02 必要感 楽しさ 体験

楽しい体験を伴う学びは、高い学習効果が期待できます。
また「今なぜそれを学ぶのか」という必要性によって、
持続可能性が高まります。



例) あきたスマートカレッジ

防災は、障害の有無に関わらず、
誰の身にも起こりうる。

POINT 03 合理的配慮

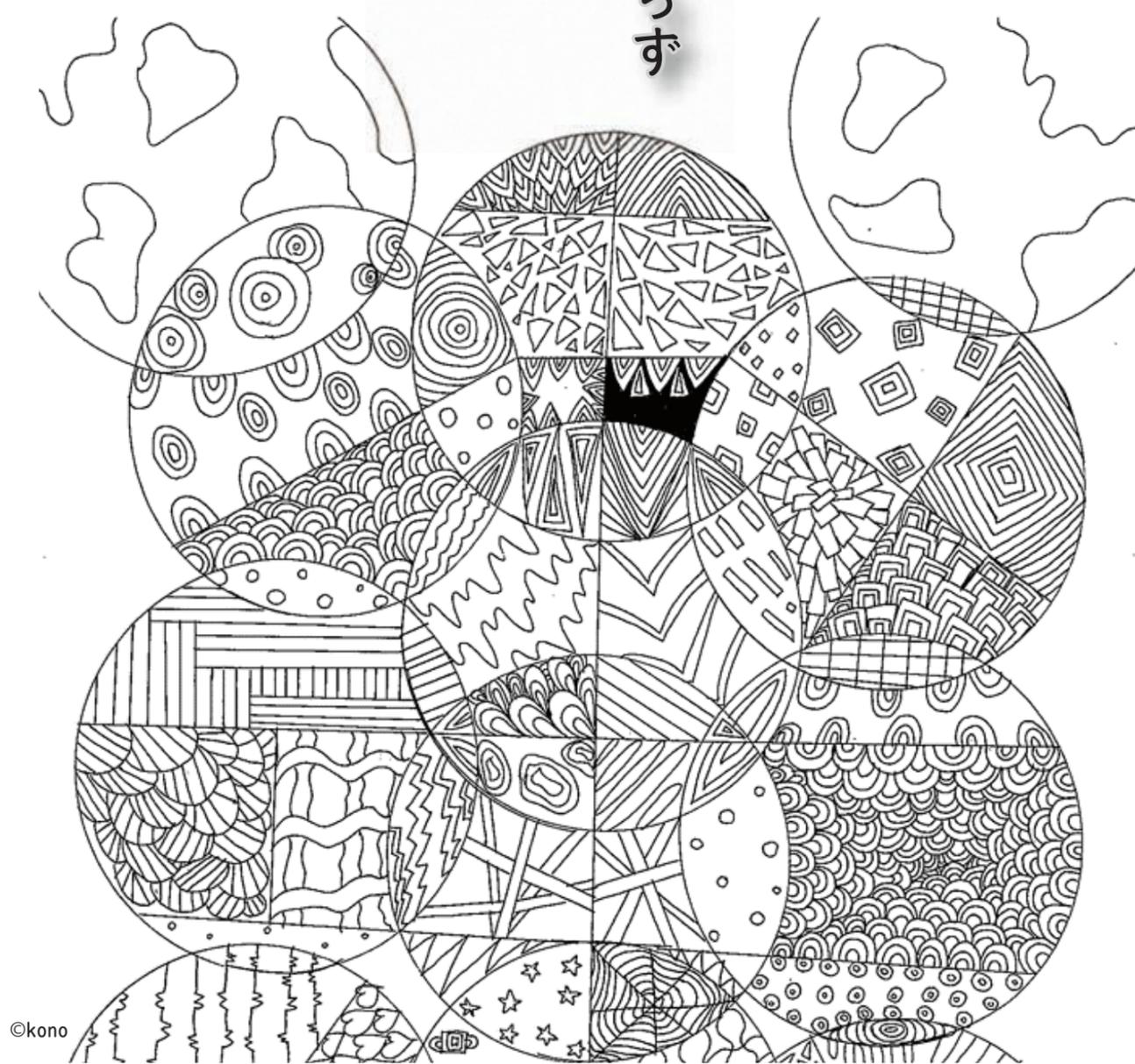
障害の状態や必要な支援は、一人一人違います。本人、
保護者、支援者と相談すると、バリアを取り除くことに
ぐっと近付きます。

それぞれの強みを生かし、
ネットワークで学びの場が充実!



障害のあるなしにかかわらず
一緒に学べる場
つくってみたい

秋田県教育委員会



「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムを創り出すことに挑戦しました

学びの場づくりの
きっかけやヒントに
なれば嬉しい！

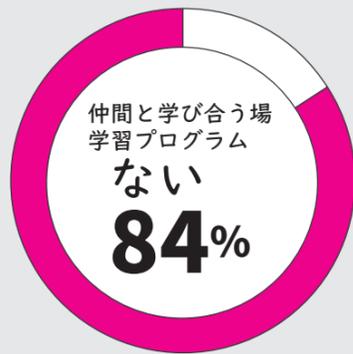
やってみて
気付いた！

「障害者の生涯学習」の推進のため、学習プログラムの創出に取り組みました。秋田県生涯学習センターでは、次の視点を基に実践する過程で大切なことが見えてきました。

視点	01 共に学ぶ場 共生社会を実現するため、障害の有無に関わらず学ぶ場	02 モデル講座 県内全ての地域で学びの場ができるよう、基になる講座	03 連携・協働 持続可能な取組になるよう様々な主体が目標を共有
実践過程	楽しい体験や思いを伝え合う機会をつくり…	当事者の声、必要感などから学びの場をつくっていくと…	様々なつながりが生まれました
大切なこと	声	場	つながり

こんな風に
やってみた！

秋田県生涯学習センターの取組：抜粋（実践例は次のページにあります）



「障害者の生涯学習」に関する
ニーズ調査（R1）

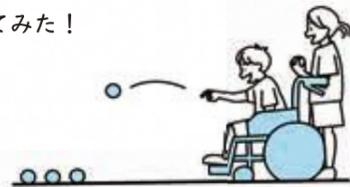


詳しくは
「調査研究報告書」をご覧ください

県内では、障害のある方の学びの機会が不足…。

そこで、講座をやってみました！

あきたスマートカレッジ
(障害者スポーツ)
体験+話し合い



講座参加者「楽しかった！」「このような場があれば…」

この声を基に

他にも新しい取組をすすめた

障害者
スポーツコーナー
設置

新たな学びの
ジャンル開拓
(防災講座)

イベント実施

- ・コートマット無償貸与（秋田県パドミントン協会）
- ・ボッチャボール寄贈（株式会社サンエスコミュニティ 秋田ノーザンハピネッツ）
- ・あきたWith(※)が設立
- ・市町村と連携・協働し講座運営
- ・小学生、中学生、高校生が障害者スポーツを体験
- ・特別支援学校で防災授業

※あきたWithは、秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した県内企業で設立した団体です。

やってみた！実践編

01 共に学ぶ場

実践1 様々な立場の人が思いを伝え合う「熟議」
県生涯学習センター社会教育主事がファシリテートし、「私たちが考える楽しい学びの場」というテーマで意見交換する場をつくりました。

「気軽に行けて、人と出会える場、
関わる場があれば（保護者）」

「誰かの全てを受け入れることは
できないけれど、受け止めることは
できると感じた（大学生）」



参加者が活発に意見交換しました。

02 モデル講座

実践2 車いすユーザーの視点での「街歩きイベント」
ランチをしよう、車いすにとって危険なものの写真を撮ろう、などのミッションにチームで取り組み、感想を伝え合うイベントを行いました。

「友達のような感覚で関わるのができた。
SNSで気付いた事を発信したい（企業参加者）」



車いすで街を歩くと多くの発見があります。

03 連携・協働

実践3 仙北市、企業と連携・協働した防災教室
仙北市中央公民館が主催し、指定障がい者福祉事業所愛仙の利用者と、広報で呼びかけた一般の方を対象に、防災教室を行いました。講師は県生涯学習センター社会教育主事が務めました。この防災教室で使用した米、アルミ飯盒などは「あきたWith」が提供してくれました。

職員が来年の防災研修のアイデアを出し合っていました（福祉事業所管理者）



仙北市中央公民館 佐々木社会教育専門官による趣旨説明

実践4 企業等と連携・協働したボッチャ交流会
「ボッチャ」で交流する取り組みをしました。特別支援学校児童生徒、福祉事業所利用者、企業、秋田県ボッチャ協会、秋田市身体障害者協会など様々な方が参加しました。また、高校生がボランティア活動をしました。

卒業してもこのような場があれば、
と思いました（特別支援学校保護者）



声を掛け合う自然な交流が生まれました。